

三三独立国展を開催 十日から 神戸市で

「かえる村」など20カ国 特産品の販売も

地域展を生かしたユニークな活動をしている「秋田かえる村」など全国各地の三三独立国二十カ国の活躍ぶりを写真、ポスターなどで紹介する「たっぼん」三三独立国展(神戸港振興協会主催)が十日から神戸市中央区波止場町五ノ四、ポートタワー内の神戸国際港務博物館ロビーで開かれる。

井上ささきさんの小説「吉里吉里入」の出版以来、各地で三三独立国の建物が相次ぎ、目下全国で百二十余の独立国があるといわれる。これら独立国は年一回の「サミット」や「オリンピック」を開くなど、代表者が国会合する機会のあるもの、各国の素顔や建国の趣旨は一般にはあまり知られていないのが実情。

十日から十日まで、二月から各地の独立国に参加を要請、賛同してくれた二十カ国が出展することになった。

参加各国は、直営市場で特産品の販売や、各地の独立国へ出荷している北海道の「なかしべつ・ゆう・もあ王国」、東京のキタリストらを呼んで、音楽芸術の里「じゅんを」を目指している新潟県の「新堀芸術連邦豊和国」など、いずれも地域の特産を生かした味のある活動が続いている。

回展は三十一日まで、入場無料。期間中「秋田かえる村」の自家製みそや、自然の香りあふれる特産品の販売も予定している。

問い合わせは神戸港振興協会、電話078-5116701。

出雲で三三独立国サミット

43カ国の首脳 珍妙に“外交”

地域おこしや観光宣伝に遊び精神をほぐすのが三三独立国の趣意を帯びている全国的三三独立国の国連サミットが十一日、出雲市で開催された。北は北海道・なかしべつもあ王国から南は奄美大島のサンマン王国まで四十三カ国二百五十人の首脳が八百方のおおむねの規模にあやかたて神戸の地で大集合。カヤカヤと多岐にわたる議論を繰り広げた。

(16面掲載に関連記事)

議長国は、山陰地方で唯一の出雲市に建設されている「ササキオロチ王国」(国王・西原光洋市長)。王国を象徴する本屋二十の大オロチと、湯殿秀経総理大臣以下十人の主要閣僚がのびのびとサミット



サミットの冒頭、出雲市市長の挨拶。背景に旗を掲げる各代表たち。出雲市駅前

ト風の神様スタイルで迎えて慶賀を扱いたが頭で、各国王や大統領、総裁連中も香ばな民族衣装で登場。三三独立国って何だ??という市民へのPR効果も満点。

初日の十一日、出雲市駅前、制四十五周年前夜祭に参加し、盛んな「国際外交」を繰り広げた。最終日の十二日は午前九時から湯殿秀経生年金会館でサミットを締め、また一人な国づくしの集が飛び出さる。